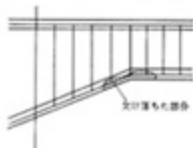


B2-8 プレキャストコンクリート構造物の受圧面の破壊

プレキャストコンクリート製品の上に直ちに他のプレキャストコンクリート製品、たとえばPC大梁・PC小梁などを直ちに載せると受圧面が破壊することがある。受圧面の多少の凹凸はさけられない。したがって受圧面には局所的に大きな力がかかるところが出てくるから破壊がはじまる。素材と素材との間に高強度モルタルを詰め込むなどの工夫を考へる要あり。



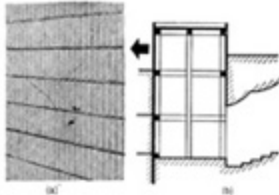
B2-9 地盤で梁のハンチ部分がきれつ割壊

図示のごとく下階梁はバンド方式。ここに局所的に必力集中がおこり下階梁のバンド方式が実形を延長し一部コンクリートが欠けおちた。交差方式をとっておればきれつ割壊は防げたかも知れない。

B2-10 高橋の広い壁のきれつ

スチール骨面やオーゲイトリアム骨壁のごとく面積が広くムらばうのきにくい壁は、壁厚を厚くするか壁を入れて壁の面積を小さく区切るかし、さらに鉄筋量を増やし壁面を鉄筋で固めてきれつを分散させる配慮がいる。

写真AはBの1/2図、市もスチール骨の壁のきれつ。



B2-11 パラベットのきれつ (その1)

パラベットが押出されて外壁面に写真のような割れを生ずることしばしばである。詳細は防水の章にゆずるとして一辺の対策のうちでコンクリート工事に就する壁面事項を二つだけ記す。

①パラベットは厚さ120mm以上とし9mm径をダブルに入れる。

②パラベットの打継ぎ面をRFLより30mmぐらい上げる。

